

沖縄県支部 第9回地方会 活動報告

『原点にもどって、少し先のことを考えてみませんか？』

沖縄県内施設の実務者、配置管理者、医師対象

開催日時：2024年7月27日（土）14：00～16：30

地方独立行政法人 那覇市立病院にて第9回沖縄地方会を開催しました。
今回は沖縄県在住の医師事務作業補助者、その関係者のみとなり、20施設、61名が参加しました。

【開会ご挨拶】

・那覇市立病院 理事長 外間 浩先生

「医師の働き方改革」として医師の業務のタスクシフティング先として医師事務作業補助者の活躍は大変期待されているが、医師事務作業補助者の雇用形態は未だ非正規雇用が多いのが現状です。当院もその一つであります。

以前、県外の公的病院に視察にいった際、その施設は非正規雇用ではありましたがキャリアラダーがあり、年に1回実施される試験により給与がレベル分けされている仕組み作りがなされていました。当院もその取り組みをモデルに変化していく必要があると考え、実務者と視察へ行き、今後評価制度の改善のヒントとなればと考えています。

今の医療現場において、医師事務作業補助者はなくてはならない存在となっているので、皆さんの施設でも実務者自らで提案、構築し、安定した働きやすい職場を作っていく工夫をしてほしいです。益々の活躍を期待しています。

【沖縄県支部の立ち上げから現在、そしてこれから】

・沖縄県支部 支部長 備瀬 澄子

沖縄県支部は2015年の医師事務作業補助者宮崎大会をきっかけに県内有志が勉強会を企画して、2017年県支部立ち上げまで計7回の勉強会や意見交換会を開催してきました。県支部となって今回で9回目の地方会となったので、参加者の皆さまへ資料を見ながら振り返りを行いました。

県支部立ち上げ当初は各施設とも業務内容の確認や取り組みを知る手段もなく

県支部で行う意見交換会が唯一の手段でした。

現在、個々の施設で業務内容は固定してきており他院へ意見を求めることも少なくなってきましたが、診療報酬改定や新たな業務も増え続ける中で、県内実務者が連携をとれる場所として県支部の存在は必要であると考えています。

協会は全国実施施設へのアンケート実施や、医療の質向上へ寄与できる職業であり続けるための研究力向上、研修コンテンツの充実を図っているとともに、全国各地域に支部を有する団体であることから、職種の重要性や地位向上を広く知らせることに貢献できています。沖縄県支部もそのひとつであるが世話人の人数も減り運営が難しくなっています。

今一度県内のみんなで力を合わせ、医師事務作業補助者を盛り上げていけたらと考えています。今後とも一緒に沖縄県の医師事務作業補助者を盛り上げていきましょう。

【第1部】各施設の課題。アンケート結果報告

参加申し込みされた施設より事前アンケートを実施しました。（アンケート内容としては、実務者の経験年数や業務内容、教育や評価等）

当日、アンケート結果を参加者へ配布し、読み合わせしながら結果報告を行いました。また、各項目で実施内容の詳細や取り組みについての質疑応答をおこない意見交換をしました。

中には、急な休みのフォロー体制は各施設で課題となっており、取り組みにより改善されている施設の事例報告に対し質問が出ました。また、人事評価について「人事評価ナビゲーターシステム」を導入している施設もあり、参加者から多くの関心が集まりました。

【第2部】地域毎のグループに分かれて意見交換会

第2部では施設の所在地域毎で少人数グループに分かれ、日頃の困りごとや自院の取り組みに関して意見交換会を行いました。自院での悩みを話し、他院の取り組みを聞くことで改善のヒントとなったり、業務に取り入れる為の課題を知ることが出来たという施設もありました。コロナ禍以降の久しぶりの意見交換会であり、各グループとも熱心に意見を出しあっていました。

おわりに

この度は当支部の地方会にご参加頂きました皆様に心より御礼申し上げます。
参加者の皆様のいきいきした表情を拝見し、私たち沖縄県支部世話人一同、これからも活動を継続していこうというパワーを頂きました。

引き続き、県内実務者が互いに情報共有しながら業務に活かせるような実りのあるセミナーを開催していきたいと思えます。

沖縄県支部 支部長
備瀬 澄子（那覇市立病院）